

ニュースレター



43 号

2022. 10. 25



はじめに

NPO法人家庭的保育全国連絡協議会 理事長 水嶋昌子

秋晴れの陽気が心地よい頃となりました。今年度も後半になり、子どもたちの成長と共に子どもたちの関係も深まり、保育が益々楽しく充実してきますね。ある日のこと、私の保育室の2歳児の男の子と女の子が公園のシーソーに乗って遊んでいた時、男の子が降りたので1歳の女の子が嬉しそうにシーソーに駆けていきました。するとさっきまで乗っていた男の子がすぐに戻ってきました。男の子は持っていたどんぐりが落ちてしまうので無くさないように置きに行っていたのです。1歳の女の子は悲しそうな顔をしました。すると男の子はじっと考えて自分が前に乗り、後ろに乗った女の子に自分の身体を持たせて一緒に遊び始めました。その様子を見た別の男の子もやってきて4人で楽しく遊ぶことができました。子ども同士でつながりあって成長している姿に嬉しく思いました。

さて、当協議会は設立15年目となりました。当協議会では、「家庭的保育の理念である『国の未来を創造する子どもたちが地域の中で大切に育てられ、守られるために』家庭的保育制度の充実発展を目指し、情報の共有、相互交流を行うと共に、調査研究、研修などの事業を行い、家庭的保育の質の向上に寄与すること」を目的として、活動をしてきました。この15年間で最も大きな変化は、2015年

子ども・子育て支援新制度によって認可事業になったことです。これによって経営は安定しましたが、近年では、少子化が加速し、「定員割れ」という問題。当協議会の新情報連絡会でも話題になり、困っている現状、解決に向けた取り組み、自治体の動き、家庭的保育の周知のアイデアなど好事例も含め参加者全員で話し合いました。すぐに良い結果に結びつくとは限りませんが参加者の皆さんが温かく、熱心で心強く感じました。その後、嬉しい報告も届き、この時の内容を参考に実行したところ、一先ず定員が満たされたということでした。もちろんこの情報は共有し、みんなで喜びました。

少子化は家庭的保育事業者にとっては大きな不安ですが、来年4月には「こども家庭庁」が創設されます。子どもを取り巻く環境は複雑、多様となっているので保育も多様化が必要です。誰一人取り残されることなく健やかな成長を保障する、という「こども家庭庁」の理念のために家庭的保育ができる子育て支援を積極的に提供していきましょう。そのためにつながっていきましょう。当協議会は会員の皆様の参加をいつも待っています。よろしくをお願いします。



- ◆1P はじめに
- ◆2P 国の動き(子ども・子育て会議)
- ◆3P 国の動き(教育・保育施設等における重大事故防止策を考える有識者会議から)
- ◆4P~6P 第54回合研 分科会開催報告
合研提案者感想
合研参加者感想

- ◆7P 2022年度家庭的保育現任研修報告
- ◆8P わたしの保育
- ◆9P おすすめ絵本
- ◆10P 家庭的保育のひろば
- ◆11P オンライン新情報連絡会開催報告
- ◆12P~13P 事務局からのお知らせ

国の動き⑨

NPO 法人家庭的保育全国連絡協議会理事長 水嶋昌子

第 62 回子ども・子育て会議

2022 年 10 月 4 日（火）にオンラインで開催されました。

〔審議の内容〕

子ども・子育て支援をめぐる課題について、他

令和 5 年度における子ども・子育て支援新制度に関する概算要求の状況、施設型給付費に係る請求書の標準的な様式、令和 4 年 4 月 1 日時点の待機児童数について、認定こども園の関する現況、バス送迎に当たっての安全管理等が話し合われ、来年 4 月に施行される「こども基本法」を着実に施行・推進するための「こども家庭庁」の取り組みについて、各委員から要望や期待など多くの意見が出されました。

次年度の概算要求では、「全てのこどもに、健やかで安全・安心に成長できる環境を提供する」という項目の中の「総合的な子育て支援」の内容の一つに園外活動時等における園児の見落とし等の発生防止のため、**園外活動時の見守りを含む周辺業務を行う者（保育支援者）の補助対象に家庭的保育事業が追加**されています。このことについて発言し感謝の意を述べました。

詳しくは、子ども・子育て会議：子ども・子育て本部 - 内閣府 (cao. go. jp)

https://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/meeting/kodomo_kosodate.html

小倉少子化対策担当大臣との意見交換会

9 月 14 日、21 日の 2 日間にわたり、小倉少子化対策担当大臣と保育関連の 13 団体との意見交換会が開催され、当協議会は第 2 回（21 日）に出席しました。各団体から下記の 4 項目について意見が述べられ、当協議会からも現状や今後の課題を発言しました。

- （1） 団体の会員が行う子育て支援の様子
- （2） 団体から見た最近の子どもや保護者、家庭を取り巻く課題
- （3） これまでの国の支援でよかったもの、効果的だったもの
- （4） こども家庭庁の創設とあわせて今後の施策として期待すること



特に（4）は今後の家庭的保育事業の位置づけにも関わることなので「社会全体ですべての子育てを支援しようとする意識を醸成し、支援を必要とする人が声を上げやすくすること。待機児童が解消されたら保育所等以外の保育は必要でなくなるのではなく、0～3 歳児を専門的に保育する家庭的保育を子どもと保護者を一緒に支援していく施設として位置づけていただきたい。」と述べました。

これまで今回のように少子化対策担当大臣と対面して、家庭的保育についてお話ができるような機会はありませんでした。コロナ禍にもかかわらず、家庭的保育の在り方、特徴や良さを伝えることができたことはとても有り難く、「こども家庭庁」の創設に向けてより期待が持てました。

これからも子育て支援に役立つ家庭的保育が社会資源として活用されることを期待します。



第54回全国保育団体合同研究集会 in 高知



第54回全国保育団体合同研究集会 in 高知は「学ぼう、語ろう、つながろう 子どもの命と育ちと平和のために！」をテーマにLive 配信併用で開催されました。また、今年度はNP0 法人家庭的保育全国連絡協議会として、分科会42「家庭的保育の現状と課題」をオンラインにて、開催しました。

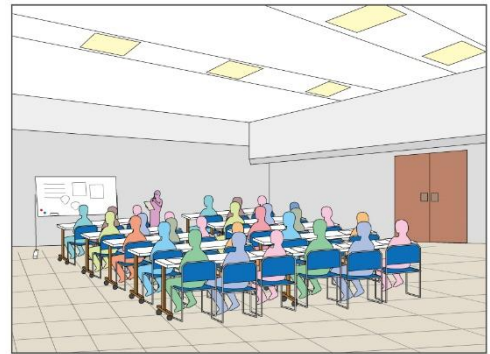
1. 開催日時：2022年8月20日（土）・21日（日）

2. 参加者数：20日 会場 268名 全国 8040名
21日 会場 230名 全国 8094名

3. 会場：高知県立県民文化ホール

4. 分科会：42「家庭的保育の現状と課題」

- ・日時：2022年8月21日 10:00～14:00
- ・参加者数：29名 北海道～沖縄まで14都道府県
- ・世話人：福川須美（駒沢女子短期大学名誉教授・当協議会理事）
司 会：相澤春美（川崎市家庭的保育者）・和田朝美（藤沢市家庭的保育者）
- ・提案者：鈴木和代（水戸市：ベリーベルすずき保育室）・盛田美樹（横浜市：もりた保育室）
赤川和之（成田市：なりたおうちほいく わたぼうし）



5. 提案内容

①「家庭的保育における連携保育所の確保について」鈴木和代

昨年から NP0 法人家庭的保育全国連絡協議会が行っている新情報連絡会に参加し、連携保育所が決まらなかったり自分で探したりという状況の自治体があることに驚き、早期解決が必要と感じた。自分の自治体では連携保育所の確保、健康診断受診や園庭開放への参加、時には行事に参加し行事食をいただくこともあり、卒室後の進級も保証されている。

全国でこのような取り組みがなるべく統一化されるよう願っている。

②「連携保育の現状と課題－欠員が出た場合の補償」盛田美樹

自分の子どもを家庭的保育室に預けてその良さを充分に感じ、子どもの預け先だった家庭的保育者が定年退職を迎えられたので、それを引き継ぎ開室。

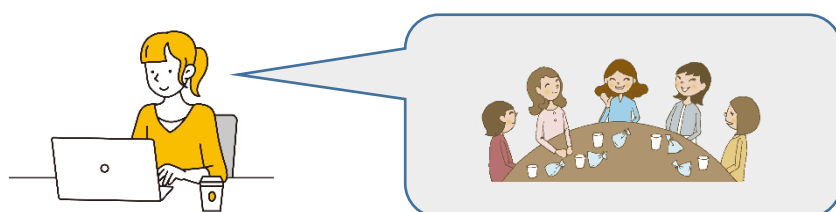
新設の開園申請は厳しい審査があり、その一つが連携施設の設定で、自分で近隣の幼稚園や保育園に問い合わせたりして確保した。しかし、卒室後の進級先や欠員が出た場合の補償については、まだまだ不十分で不安が残る現状である。

③「地域の中で子どもを育てる家庭的保育のこれから」赤川和之

開園から6年、当時とは周囲の状況も大きく変わり、待機児童から定員割れと、どこでも良いか

(相澤春美、稻垣裕子、鈴木桂子)

A decorative horizontal banner featuring a series of musical notes on a five-line staff. The notes are interspersed with various autumn leaves in shades of yellow, orange, and red. The staff begins with a treble clef on the left and ends with a double bar line on the right. The overall style is whimsical and seasonal.





わたしの保育



～子どもも大人も楽しい保育を～

神奈川県秦野市

おかのうえ保育室

家庭的保育補助者

湊まゆみ

私が「家庭的保育」を初めて知ったのは、秦野市の広報で“保育ママ補助者募集”の記事でした。6年前、3歳の息子と2歳前の娘を連れ、履歴書を持って、おかのうえ保育室に面接に行った時、すごく温かみのある優しい空間に、こんな素敵な保育の場所があるんだ！と衝撃を受けたことを覚えています。



当時は施設長の瀬戸先生の自宅の一室で保育を行っていましたが、2017年に近くのショッピングセンター内の店舗へと移転しました。隣には絵本や雑貨、身体に優しいお茶やお菓子を販売するコミュニティ café を併設しています。

コミュニティ café は、お母さんたちがホッとして、子どものことだけでなくお母さん自身のことも話せる場を作りたい、地域の方との「つながり」を大切にしたいという瀬戸先生の思いが込められています。

私自身、夫の転勤で奈良から関東へ引っ越してきて、知り合いのいない中で孤独な子育てでした。ただ1人頼れる夫も仕事の帰りが遅く、もう心も体もヘトヘトでした。そんな時、おかのうえ保育室で補助者として働き始め、瀬戸先生に話を聞いていただいたり、子育てのアドバイスをいただいたりする中で、心が満たされていきました。そして、瀬戸先生はじめ補助者の先生方、保護者の方々とつながり、仕事をする中で、母としてだけでなく1人の女性として社会に認められたような気がしました。その充実感が、私の補助者として働く大きな原動力となっています。

孤独を感じながら誰にも助けを求められず、苦しみながら子育てをされているお母さんたちは、きっと沢山いるのではないかと思います。誰かに話を聞いてもらえる場所、子育ての悩みを打ち明けられる場所、自分自身のことを語れる場所、私も救われた母親の1人として、これからも地域に開かれたおかのうえ保育室であることを大切にしていきたいです。

家庭的保育の良さは何ととっても1人1人のお子さん、保護者にきめ細やかに、そして柔軟に対応できることだと思います。これまで重度のアレルギーのお子さん、発達に課題のあるお子さん、それぞれ全く違う発達に課題を抱えた2人の男の子をお預かりしました。毎月1回全職員が集まり、ケース会議を行い、今のその子の姿、これからの課題について話し合います。毎日その日保育を担当した補助者が子どもの様子をノートに記録し、写真を撮ってLINEのグループで共有します。職員全員で共通理解をすることで、子どもをより深く理解し保育できるようになったり、全職員が同じ方向を向いて保育することができるようになりました。



かつて民間の保育園に勤めていた時は、書類や作り物に日々追われ、保育を楽しむ心の余裕がありませんでした。きっと疲れた顔をして保育していたと思います。仕事を分担してチームとして働ける今の環境はとても有難いです。子どもも大人も楽しい保育を、笑顔の循環が生まれる保育をこれからも心がけていきたいです。(写真は保護者(おかのうえ保育室)の許可を得て掲載しています)



おすすめ絵本

大分県大分市 マミー保育室 広瀬政子

家庭的保育を始める時には、不安を抱えてスタートしましたが、今年度で開園約10年になります。

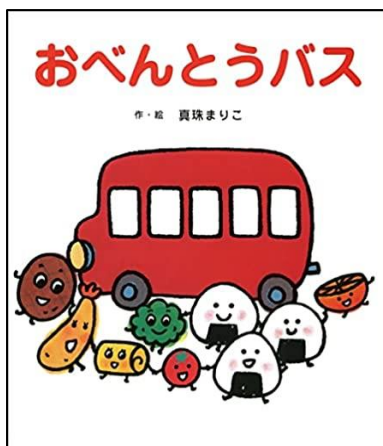
ひとりひとりと向き合った保育をモットーとしてきましたが、毎日が反省の連続！ そんな中、いつも寄り添い、助けてくれたのは、絵本でした。

子どもの年齢や好みを把握した絵本が、コミュニケーションに役立ち想像を広げてくれました。絵本は、子どもたちの情緒面での発達に大きな影響を与えていると思います。

昼食後から、お昼寝までの間は、自分で見たり読み聞かせたりの絵本タイムです。また、季節・行事などの絵本もその都度取り入れています。

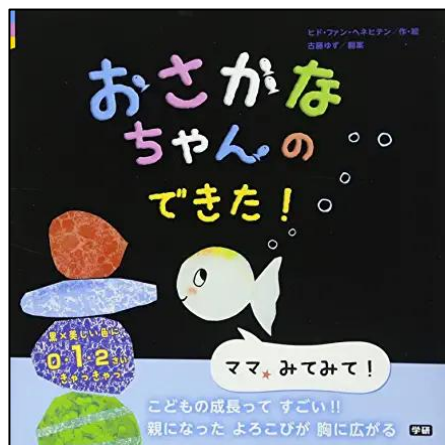
最近のマミー保育室での人気絵本を、紹介します。

「おべんとうバス」「おさかなちゃんのできた！」「もっともっとおおきなおなべ」の3冊です。



作・絵 真珠まりこ
出版社 株式会社ひさかた
チャイルド

おかずが、赤いバスに「はい！」と返事をして乗り込む様子がかわいくて、お弁当に変身すると、Aくん（2歳0ヶ月）は、思わず手を合わせて「いただきます」をしています。



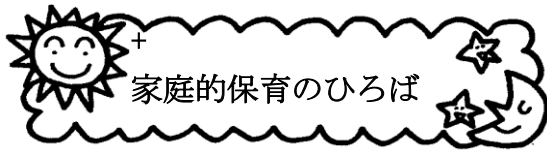
作・絵 ヒド・ファン・ヘネヒ
テン 翻案 古藤ゆず
出版社 株式会社学研プラス

何度こわれても、ママをびっくりさせたくて、石の積み木をがんばって完成させたおさかなちゃん！
おさかなちゃんのママの大きさに、Bちゃん（2歳6ヶ月）もびっくりです。



作 寮美千子
絵 どいかや
出版社 株式会社フレーベル館

ねずみくんが、きのこのシチューを調理中に、おなべがいっぱいになって、もっともっと大きなおなべを借りに行くお話です。登場する森の動物とおおきなおなべに、Cちゃん（2歳0ヶ月）も興味いっぱいです。



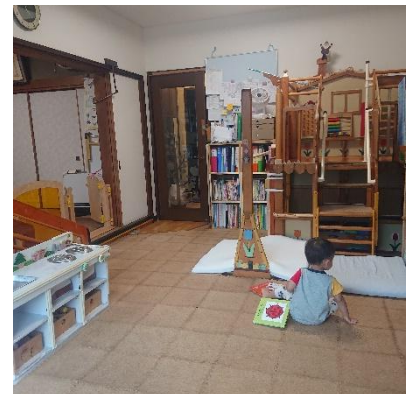
横浜市 そのだ家庭保育室

家庭的保育補助者 中静直子

横浜市内にて家庭的保育室を23年間運営し、定年で保育室を閉めて、令和元年4月より知人の家庭保育室に補助者として勤めています。補助者を引き受けるきっかけは、「子どもたちとふれあえる喜び」「保育室で自分のできることで手伝いしたい」という想いがありました。反面、「年齢を重ねた自分が、子どもの活動に機敏に動けるか」という懸念もありました。しかし家庭保育への想いが勝りました。実際に勤め初めと補助者としての保育観や子どもたちへの接し方等で自分の保育を見つめ直す機会となりました。今は、「よこはま☆保育・教育宣言」を意識して、保育に当たるようにしています。

※よこはま☆保育・教育宣言で検索するとブックレットのダウンロードや内容をわかりやすく紹介した動画を見ることができます。

そのだ家庭保育室



補助者として大切だと思う事は「環境整備」です。子どもたちが、安全に清潔な保育空間で快適に過ごせる環境作りを目指しています。また保育者や他の補助者が、保育しやすい環境になるように配慮しています。例えば玄関まわりなどの清掃整備、制作時に使う糊などの他いろいろな教材の点検補充、絵本などの消毒や補修おもちゃの点検確認、日光消毒などいろいろな細かなところに目を配るようにしています。一日の流れが保育者や他の補助者、子どもたちが、快適に過ごせるように心がけています。保育運営をしてきた経験者だからこそ、保育者の動きを察し、より良い環境作りを目指していけるとと思っています。保育運営を終えても、他の保育室で経験をいかせることを嬉しく思っています。

☆私が保育室を運営していた時に作った手作りおもちゃを紹介いたします☆

ぴよんぴよん人形はわらべうた『きやあろの目玉』で動かします。

ぴよんぴよん人形



きやあろの目玉に
きゅうすえて
それでもとべるか
とんでみな
おっぺけぺっぽ
ぺっぽっぽ

ウォールドルフ人形



手袋人形ぐりとぐら、三匹の子豚



落ち葉のジグソーパズル



フエルトじゃんけん



絵本三匹のこぶた、ボタンがふたつ



オンライン新情報連絡会開催報告

◆新情報連絡会（2022年7月24日）10:00～11:15 参加者数17名

今回は、「保育の振り返り、自己評価について」の話題提供と、「自分が知りたいこと、伝えたいこと」を自由に出し合い、グループに分かれて話し合いました。

1. 「保育の振り返り、自己評価について」話題提供

理事長より、2019年度セミナーの厚生労働省保育課保育指導専門官、高辻先生の基調講演内容紹介とシンポジストの皆さんから提供された自己評価チェックリストの紹介があり、「保育の質を向上させるには保育の振り返り、自己評価に取り組むことが大切である。全員が自己評価を実施し全体的な傾向を把握し、問題を浮き彫りにすることにより、課題を見つけられるので、ぜひ実施してください。」との勧めがあった。

2. 主な話し合い内容

①事務作業などが多いため、健康管理に気をつけている。②2園経営、職員との保育観の違いがある中での運営の難しさ。③定員割れについて、家庭的保育の良さを伝え、個々のニーズを大切にすることで行政や保護者から信頼されるよう、アピールすることが大切。④家庭的保育者（事業主）がケガ、疾病等で保育が出来なくなった場合のマニュアル作りが必要。

3. 参加者の感想から

自己評価の見直し職員会議の記録など職員で話し合い進めていきたい、危機管理マニュアル作ってみようと思う、自己評価チェックリストをいただけて良かった、やはり出席すると得るものは有るのだなど実感した、等の感想が寄せられました。



◆新情報連絡会（2022年9月11日）10:00～11:15 参加者数15名

「家庭的保育者がケガ、病気等で保育ができなくなった時の対策について」や、「自分が知りたいこと、伝えたいこと」を自由に出し合い、グループに分かれて話し合いました。

1. 主な話し合い内容

①代替保育は申し込み方法、申込期間、連携費用他、自治体によって違いが多く、代替保育制度が機能していない地域もある現実。②家庭的保育者のコロナ感染等、不測の事態が起きた場合のマニュアルを作っておかなければならない。③登園自粛の場合の保育士の人件費について、特別休暇や有給休暇で対応しているところもある。④家庭的保育者と職員の年齢が上がるにつれて保育が大変になっている。

2. 参加者の感想から

代替保育については自治体により違いがある事を実感、参考になった、コロナ感染や不測の事態に備え、マニュアルを作成しようと思う、職員や自身の健康状態が不安という声があり、声をあげながら皆で共有することがどれだけ大事か実感できた、等の感想が寄せられました。

（清水佳恵、西村理恵子、大江由香、武田真由美）

事務局からのお知らせ



1. 傷害保険の補償内容について

9月11日に開催したオンライン新情報連絡会でお知らせしたとおり、現在家庭的保育者が加入している傷害保険の補償内容は、新型コロナウイルス感染症も対象となっています。

また、補助者と児童に関しても「感染症有りプラン」に加入していれば補償対象となりますので、該当の方がいる場合にはぜひ申請してください。

なお、申請期間など詳細は毎年送付される「家庭的保育全国連絡協議会専用 団体保険制度のご案内」パンフレットP13に、事故報告書はP9に記載されています。詳細は代理店に問い合わせの上、申請してください。（対象は9月25日以前に感染された方です。）

2. 新型コロナウイルス感染症における「入院の特別取り扱い」の対象について

新型コロナウイルス感染症における「入院の特別取り扱い」対象について2022年9月26日（月）以降の対象が変更になりました。詳しくは当協議会ホームページの「専用団体保険」をご覧ください。

なお、不明な点等ございましたら、代理店に直接お問い合わせください。

【問合せ先】

取扱代理店：(株)東京海上日動パートナーズ TOKIO 新宿支店（担当：岡田・青木・小島）

TEL：03(5333)1431 FAX：03(3375)8470

保険金の請求は、事故受付センター（東京海上日動安心110番）

0120-720-110（24時間365日）



（後藤亜希子）

◇会員専用 メール情報配信のご案内

☆会員の皆様に情報配信したメール（2022年7月～2022年9月）

- ・7/15 新情報連絡会の開催案内（オンラインで情報交換しませんか）
- ・7/16 第54回全国保育団体合同研究集会開催のお知らせ
- ・7/28 第54回全国保育団体合同研究集会開催のお知らせ
- ・8/04 研修会のお知らせ
- ・8/12 新情報連絡会の開催案内（オンラインで情報交換しませんか）
- ・9/01 新情報連絡会の開催案内（オンラインで情報交換しませんか）



[illegible]

